



NO. 942

2013・10・27

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四四三、四四五八  
F 四三二、四四五七

# 網走市防災訓練行われる

## オホーツク海で大地震発生、震度4の地震が発生し津波警報発令を想定に

10月20日(日)午前8時から、市内潮見172にある消防署南出張所で災害本部設置訓練と関係機関応急対応訓練が行われました。

消防署のレスキュー隊による放置車両撤去及び多重事故負傷者救出訓練は実際の車両を使い、車両を切断しての訓練は臨場感あふれるものでした。

この日の訓練で特徴的なことは、活動調整会議が開かれたことです。網走市、オホーツク総合振興局、開発建設部、警察、消防、気象台などが一堂に会し、網走市長が司会役となり、各セクションにおけるやるべき事項に基づいての情報交換を行い、迅速に対策を立てるためのものでした。

一方、潮見小学校では、避難施設開設・受入・市民参加訓練が行われました。津波浸水予想地域である鉄南地区町内会連



多重事故負傷者救出訓練



活動調整会議



験を交え、わかりやすく気軽に防災について解説し、東日本大震災での教訓をソフトに伝え、集まった子どもたちを含む多くの参加者は拍手を送っていました。



防災エンスショー

### 多くの課題も

今回は、避難所開設と受け入れ訓練がひとつの目玉でした。津波浸水予測地域からの避難として、川向地域からの想定がありました。本来は向陽地域への避難です。そこを徹底しつつ、網走市の地形・地質から来る地震と津波発生という事態に対して地域防災力を向上させるという基本認識をもたないと防災対策にはならないとことです。

今後、対象地域は数多くあります。継続的に訓練を行うことができるのか、多くの課題を残しています。

また、今回行った潮見地区では、小学校通学児童には周知をしていましたが、地域に周知チラシが入ったのは4日前とか。これでは潮見地区の住民に知れ渡ったとは言い難く、広報車などでの周知はなかったのかと言う声も地域から聞こえていました。

潮見小学校避難所運営委員会をはじめとする関係機関での反省評価が待たれます。

### 流水

▼沖繩の基地問題や米軍海兵隊のドキュメンタリーを撮り続けている森の映画社の藤本監督からの電話で網走に来る、と言うので、小中学生のいるお母さん達に声をかけて話を聞く機会を設けた。▼「アメリカは沖繩に最新鋭の基地を造りこれからも戦争を仕掛けていこうとする。その時、安倍首相がいう「国防軍」で兵隊にとられ命を落とすのは日本の若者たちです」と語る監督の言葉にこども達もその親も食い入るように聞いている。「辺野古に最新鋭の基地が造られたら日本は大きく変わる」とも。▼米海兵隊取材した『ワンショットワンキル一撃必殺』の映画紹介の文には「沖繩の海兵隊の顔がなぜ幼く屈託なくみえるのか。それは彼らがまだ人を殺していないからだ。戦場は沖繩の先にある。人を殺したら元の自分には戻れない」とある。▼辺野古や、高江のヘリパッド反対にたずさわる人々を撮っている監督は今、そこで知り合った辺野古のおばあ島袋文子さんと道内を回っている▼戦争末期16歳の時沖繩戦を体験し、上陸した米軍に追われ目の不自由な母親と10歳の弟を連れ壕から壕へ「夢遊病者のように逃げ回った」「壕の中では日本兵が泣く子を刺し殺し、追い出され」「暗いなか逃げる時死んだ人を踏みつけてしまいとても辛かった」と語り「夜、喉が渇いて水たまりから汲んだ水を母や弟に飲ませ、朝見たら水たまりには死んだ人の上半身が。死んだ人の血で生かされて今ここにいます」とも▼沖繩を自分たちの問題とできるのか「本土」が問われている(た)